

図書館再整備検討委員会

【第5回会議】

とき 令和元年11月14日（木）

ところ 市民会館 401

目次

- 1 検討委員会の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～6
- 2 福島市立図書館本館の再整備に向けた検討報告書（案） 別紙

1. 検討委員会の振り返り

(機能や使いやすさ)

- 賑わいも必要だが、そればかり追い求めると中途半端な施設となる。賑わいに過度に傾斜せず、従来の図書館機能を中心とした施設が望ましい。
- 将来の図書館利用を考えれば、子どもたちや子育て世代が利用しやすい、誰にでも開かれた図書館を目指すことが重要
- 利用することが想定される方の、いくつかのシチュエーション（利用形態）を考えて、検討したほうがよい。
- 子どもを連れて利用する際に、休憩場所があったらいいと思う。
- 高齢化社会へ対応する機能強化を検討してほしい。

- 図書館の利用のついでに、子育て世代が弁当持参で隣の公園で遊ぶなどといった、レジャー感覚で利用できるイメージだと堅苦しくない。
- 多くの市民の居場所（サードプレイス）を作してほしい。特に子どもたちの居場所としての図書館の再整備を検討してほしい。
- 開架スペースが静かすぎる、場所が分かりにくい、敷居が高いという印象が今までの図書館にはあったと思う。
- 市内の図書施設の連携やネットワークの議論も、再整備のための機能としては重要ではないか。
- 学習スペースは、適切な規模及び可変的な運営についても検討が必要である。

（その他手法）

- 自動貸出機によるサービスよりは職員と利用者が触れ合うことが必要ではないか。

(立地)

- 交通の便利な場所で、ある程度の駐車場を確保できる場所が良い。
- 高齢者や親子連れが利用しやすい場所、できればバス停がほしい。
- 交通アクセスという点では、バス停が近いことも重要だが、自家用車を利用する市民のことも考え、駐車場を広く整備することも重要だと思う。
- 中心市街地で小学校の統廃合があれば、廃止する跡地も候補地となるのではないか。
- 学校など公共施設の統廃合時期が合致しないと、図書館用地の候補にはならない。
- 今後公共用地の再編でも、望ましい立地条件を全て満たす場所が出るとは限らない。また現在地が全く適していないとまではいえないのではないか。

- 図書館単体だけが立派でもダメで、図書館が立地することにより周辺の施設とどう結びつくかという視点も大事である。
- 中心市街地には他にはない魅力や良さがあり、そこに立地するためには犠牲にしなければならないこともある。
- 公共交通のアクセスは、立地には絶対必要だと思う。逆に、駐車場を使わない人でも、公共交通を使えば、アクセスは可能だと思う。

(統合)

- 中心市街地にある3つの図書館本館、分館の役割分担の整理が必要であり、場合によっては、整理統合も必要ではないか。
- 30年先、40年先の人口動態も考えた整備が必要ではないか。負の遺産とにならないようにすべき。